

決裂の淵に立ち 無謀一步を進むる

十九ヶ國委員會

形勢益々我に不利

〔ゼネハセ日〕

十九ヶ國委員會に依て、日支紛

争に關し聯盟總會へ提出すべ

き報告文起草を附託された九

國委員は本朝其會合を催した

傳ふる處によれば右報告は聯

盟規約第十五條第四項を適用

して兩當事國の勸告を發する

ことを提議するだらうとのこ

とで、右起草委員はドイツ、

スペイン、フランス、イギリ

ス、イタリア、スイス、スウ

エデン、チエツコ、スロバキ

アの各代表及十九國委員長の

九名で、委いん會は任務の審

判を容易ならしむるため、聯

盟事務局で立案した二部より

成る秘密報告を利用する事

した。

右報告の概要としてゼネハ

新聞及びソリン市スタンダード

通信いんの報ずる處によるよ

第一部分に於て奉大事變を説

し、之は長期繼續せる紛擾の

最後の一幕に過ぎぬと共に

支那關係に於ける紛擾となつた。

該報告は問題の諸

事實であると確認した。斯

の侵略と認め満洲國獨立を否

くあらゆる戰争、さらには

時期に於て滿洲が獨立して居たとしても、矢張支那の一部

であることに相違なく、滿洲

士であることは争はべからざ

る事實であると確認した。斯

の侵略と認め満洲國獨立を否

くあらゆる戰争、さらには

時期に於て満洲が獨立して居たとしても、矢張支那の一部

であることに相違なく、滿洲

士であることは争はべからざ

る事實であると確

